



2016年10月15日(土) 矢倉岳(870m)

Report by Kumamoto

山頂から富士山・愛鷹山・箱根・相模湾の展望が期待できる箱根足柄にある「矢倉岳(870m)」に、吉松さん、高橋文さん、根岸さんに久し振り参加の鵜飼さんと熊本の男性ばかり5名で登ってきました。



寒い前日と変わって今日（15日）は雲一つない好天で陽ざしが暖かく秋の陽だまりハイクが楽しめそうだ。山頂からの展望も期待できそうだ。

小田急線新松田駅に集合。

渋沢付近から正面に富士山が見えてくる



新松田駅の2Fからみた富士山

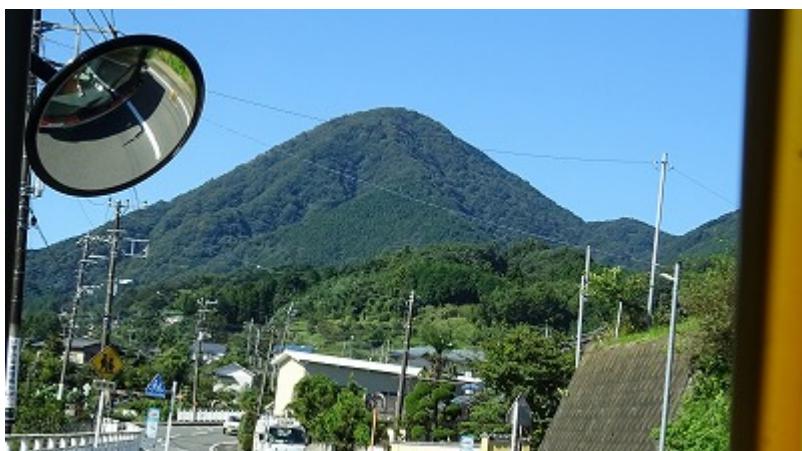


早めに集合場所に到着した鵜飼さんと熊本は駅の「箱根そば」（かき揚天そば）で腹拘えし、時間調整して3名の到着を待つ。「箱根そば」は、駅そばにしては旨かった。



8:43 着の電車で吉松さん、高橋文さんが到着。鵜飼さんは箱根登山バスの先頭に並ぶ。

9:10 発の地蔵堂（関本経由）行のバスで矢倉沢に向かう。



バスが矢倉沢に近づくと正面に矢倉岳が見えてきた。
おむすび山みたいだが、見る方向によるのか、櫓（やぐら）に形が似ており、矢倉岳と名前が付いたとの説がある。



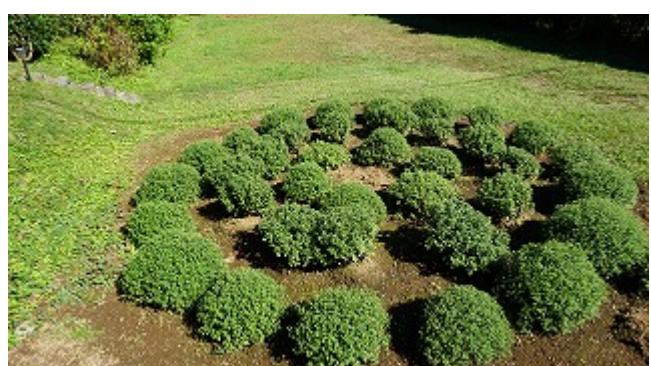
9:42 矢倉沢バス停に到着し直ぐに右折する。正面に矢倉岳を見ながら数分歩くと、矢倉沢公民館があり、その広場でストレッチを行う。(9:50)



矢倉沢里山さんぽコースの標識があり、暫くはそのコースに従って進むとすぐに前田橋があり、内川を渡る



前田橋を渡り更に真っ直ぐ進むと、何と個人住宅の外壁に「矢倉岳ハイキングコース」と大書してあった。矢印に従って左折して進む



すると丸く刈り込んだような木が現れた。

これが矢倉沢の「ざる菊」と鵜飼さんが教えてくれた。まだ花が咲いてなかったが・・・・



二週間後には花が咲き、左写真の様に綺麗なお花畠になるらしい。

矢倉沢ざる菊祭り

<http://www.nihon-kankou.or.jp/kanagawa/142174/detail/14217ba2212081370>



更に 5 分程進むと白山神社があり参拝し無事登山を祈願する



右折し竹林に入ると、鹿避けのゲートが出てきた。

そこは、一面の茶畠だった。バス停から歩き始め 30 分経過。



登山道は細くなり傾斜もキツクなってくると、秋の高山植物やキノコが出始めた。
(後程まとめて掲載する)



バス停から約45分経過し、汗もタップリかき始め、最初の休憩を取る。



杉や赤松の樹林帯の中で展望は殆どなく、黙々と登り詰める。



標高800mを超える山頂が近づくと周囲はトリカブトの群落となった。(11:20)



滑り止めのロープ場を過ぎると、傾斜は緩やかになり、山頂が近くなった。



前方が明るく開けススキが見え始めたもう山頂だ。



山頂に出て、最初に目に飛び込んできたのは、右に金時山、中央に神山（大湧谷）、左に明神岳だ。



左下には小田原の市街地と相模湾が広がり・・



金時山の右手には愛鷹連山が



更に山頂を右に進むと富士山の全景が現れた。(11:25)

バス停を降りてから約1時間45分で山頂に立てた。

山頂は広くススキが原だった。



ススキに浮かび上がる富士山

870mの低山ではあるが、山頂からの展望は素晴らしい！

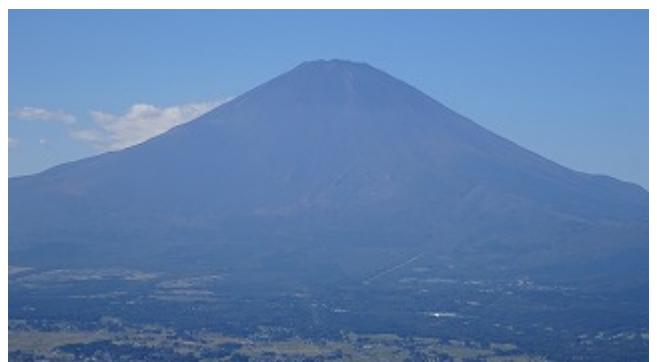


ススキに座り込み、昼食タイム。

陽ざしが暖かくピクニック気分だ。



富士山をバックに記念の一枚



富士山の写真をいろいろな角度から撮り・・・



12:00 下山に入る。

コースは富士山に向かって万葉公園から地蔵堂へ下る。



下山路から見た富士

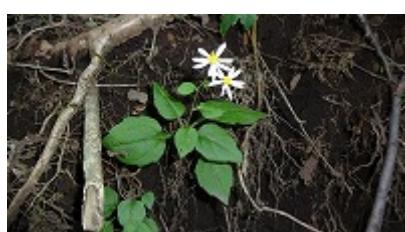


15分ほどで山伏平に到着。もう樹林帯の中で展望はない。



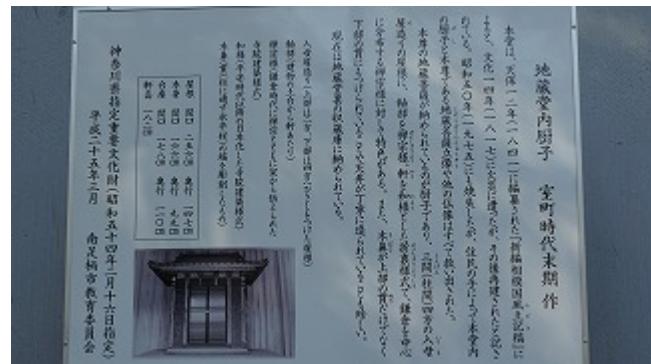
赤松や杉の林を鵜飼さんを先頭にヒタスラ下った。

本日矢倉岳で出会った花・果実・キノコは下記に一覧にした。





万葉公園から舗装道路に出て（13:10）、見晴台まで歩き、万葉公園～地蔵堂の二駅をピストンしているバスに乗り、地蔵堂へ



地蔵堂に 13:45 に到着した。新松田行のバスは 14:25 で 40 分程待ち時間があり、周囲を散策。



皆さん、朝採れの生椎茸などを調達したりして時間調整する。

予定より 1 時間早いバスに乗れ、新松田へ



新松田始発の急行で、鶴巻温泉へ



鶴巻温泉「弘法の里湯」で汗を流し、生ビールで乾杯！

(根岸さんは義父のお見舞いで、温泉はバス)

今日は終日快晴で暖かく絶好の秋日和に恵まれ、山頂からの展望も申し分なく、
次回は積雪時に再度登ってみたい山でした。

今回は久し振りに鵜飼さんと登った。 78歳の高齢だが、全く年を感じさせない山歩きで、我々の山先輩として、沢山の励みと大きな勇気を貰った。我々も頑張らなければと！ また一緒に登りましょう。